

平成27年度の年間の活動

1. 年間を通じた作業

1) 毎月の定例活動

月に一度、町の「里親制度」で協定を結んでいる区域の樹木の剪定、草刈り作業を中心に、団地内全体の街路や公園の清掃作業の補助をしています。

2) 子供会が毎年行う「子供会花壇造り」の指導応援

耕運や施肥を事前に行い、学童や父兄と一緒に花の植え付けをします。

3) 夏祭り会場の草刈り作業

昼間の神輿かつぎが終わり夕方になると、人々は盛大な盆踊りや演芸が行われる会場に移ります。花火打ち上げの池を取り囲む、広大な築山は最高の観覧席になります。自治会や祭り実行委員との連携で、今年是一般住民の多くの参加があり、効率よい会場の草刈り作業ができました。



夏祭り会場の草刈

4) 町の公共施設「ふれあいセンター」の壁面緑化

夏場の強い直射日光を遮るグリーンカーテンの設置に協力しました。朝顔、へちま、ゴーヤ等をプランターに植え付け、午後から夕方にかけての強烈な日差しを防ぎました。

2. 池の水質浄化

大量の藻が発生しその駆除に悩まされている現状に対し、各施設に出向き水の性質や水生植物について学びました。また水質浄化への取り組みをしている受賞団体へも訪問いたしました。

これらの集大成として、水路に工作物等の設置をして、いろいろ実験しながら経過観察中です。

1) 濾過による水質改善

流速の早い水路の水を土嚢に入れた大小の砂利で堰き止め、滞留する水の中に木炭を沈め、その後水を徐々に下流に流す試みをしています。

2) 水生生物による水質改善

「オモダカ」、「トチカガミ」、「エビモ」等の水生植物を投入し、生育と適応を観察しています。



濾過による小川の水質改善



水生植物による水質浄化

3. 樹木の説明板設置

昨年度に設置した街路樹の説明板に続き、今年度は「島津の杜」公園内の園路沿いにある樹木に説明板を設け、公園内を散歩する人たちに改めて樹木に関心を持ってもらいます。



公園内樹木への樹名板の設置

4. 受賞団体との交流

茨城県筑西市「旭ヶ丘自治会」より訪問を受けました。

県西部に位置する「旭ヶ丘自治会」と県の東に位置する「南平台環境ボランティア」が初めて会合し、おかれた環境の違いはあるにしても、自治会運営や環境問題に対し共通する事案も多く、特に樹木の管理の仕方や作業をする人たちの高齢化による世代交代の必要性等の意見交換ができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。



茨城県筑西市「旭ヶ丘自治会」との交流会



旭ヶ丘自治会の南平台見学

5. 自然観察会

平成25年度「霞ヶ浦環境科学センター」での水質についての勉強会、平成26年度「筑波実験植物園」での水生植物についての勉強会に続き、本年度は「牛久自然観察の森」

への観察会を実施いたしました。

昔から生活の身近にあった里山の自然環境を保全し、多様な生きものが生息できるような環境づくりをしているこの「自然観察の森」を指導員の説明を受けながら散策しました。

私たちの住む団地内には、人工的ではありますが数多くの樹木や植物に囲まれた中に、いくつかの水路とそれを受け止める池があります。これは正に「自然観察の森」の縮小版と捉え、いくつかのヒントを得る絶好の観察会となりました。

この三年間、各施設で学んだ「水質」「植物の生態」「それを取り囲む自然の森」を基に、私たちの取り組むべき、「水」、「樹木」、「鳥」への関心と保護に努めて参りたいと思っています。



牛久自然観察の森観察会



指導員の説明を受けながらの散策

受賞を契機に新たに取り組んでいること

1. ボランティア活動への参加意識の高揚

1) 活動内容の周知の工夫

毎月の自治会内回覧や団地内掲示板に載せる「環境ボランティア活動」への参加お知らせを簡潔に分かりやすい内容で編集し、和やかな集合写真を収め目立つ内容に更新。多くの住民の目にとまるようにしました。

2) 自治会活動保険適用

住環境の維持向上にむけ、日ごろ協力しているボランティアのメンバーが、万が一作業の中でけがや事故に遭った場合の補償について、改めて行政と自治会に整理調整を図り、安心してメンバーが作業できるよう「自治会活動保険」の適用を受けられることになりました。

上記の内容も含め、自治会の役員会や住民との日ごろの出会いの中で、機会あるごとに積極的に活動参加を呼び掛けた結果、少しずつではありますが参加者の増加がうかがえます。

2. 環境への維持保全活動の継承

住民の中には多種多様な経験を持ち、環境にも多くの関心を持っておられる方が大勢います。しかしながら、なかなか前面に出て活動を起こすことが出来ないのが現状です。若い人たちは今の仕事や家庭を守る事に精いっぱい、リタイヤした高年層は気力、体力的に行動を起こせないなどが理由です。現在活躍している環境ボランティアのメンバーが、日ごろの情報交換の中で潜在的人材を掘り起こし、仲間に入れていただく努力が必要となります。

私たちの住む自然が多く残ったこの街を、大人たちが日ごろ樹木の手入れをし、水路や池の中に入り清掃をする。団地内を飛び交う野鳥の説明看板を立て、鳥の鳴き声にも関心を持たせる。このような日々の大人の行動が、子供たちの目に少しでも留まっていれば自ずと自然環境への関心と自然保護の気持ちが養われて来るものと思っています。

声を大きくして環境維持活動への参加を訴える事も時として必要ですが、行動を起こす環境作りを長い目で育てていきたいと思っています。

調査検討費の使途

- 緑化維持、水質保全活動
 - ・水路への浄化対策
 - ・公園内樹名板設置

- 環境保全に関する研修、講習会
 - ・「牛久自然観察の森」観察会
 - ・他団体交流会

- 会議、事務費
 - ・総会、会議費
 - ・事務費、燃料費

近い将来取り組まなければならない課題

1. 傷んだ街路樹の樹木調査と対処策の構築

2本の主要幹線道路が団地内を取り巻いており、シンボルロードでもあります。公園を含め多くの樹木は何らかの問題を抱えています。街路樹を重点的に病気等の駆除と新たな植栽計画を立て、継続事案として各関係者と対応を協議して参ります。

2. 楽しいボランティア活動の継続

義務や責任感に頼ったボランティア活動は長続きしません。皆と会い楽しく作業を行い、やりがいを見つけ、次に繋がる楽しみが見出せるよう、運営も考えていきたいと思っています。

例えば、街路樹の落葉拾いも、毎シーズン大変な労力を払うものですが、收拾後は町の処分場へ行ってしまいます。これらの一部を利用して腐葉土を作るとか、枯れ枝や倒木をチップにして園路等に敷設するなど、作業の結果が改めて環境保護に還元できると素晴らしいと思っています。

3. 互いの存在と連携の確認

私たち南平台環境ボランティアは、自治会運営の一部分を補完するという立場であり、また行政である町の管理用地の一部を維持管理し協力しているにすぎません。

独自の予算を持たない私たち団体は、即行動に移すことが難しく、絶えず自治会や行政と連絡をとりながら、より一層の意思の疎通を図っていくことが大切なことと思っています。